令和6年度 第3回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」記録

期日：令和6年7月23日（火）9:30～

場所：土別市庁舎 3階 議場

出席者：上川管内市町村教育長（旭川市を除く）

事務局：土別市教育委員会

1 議題

○ 各種目報告と採択

令和7年度使用中学校用教科用図書

- ・国語 ・書写 ・社会（地理・歴史・公民） ・地図 ・数学 ・理科 ・音楽（一般・器楽）
- ・美術 ・保健体育 ・技術 ・家庭 ・外国語 ・道徳 ・特別支援

2 記録

事務局 ただいまから、第3回第6地区教科用図書採択教育委員会協議会を開催する。

開催にあたり、協議会会長からご挨拶を申し上げます。

会長 教科用図書は子どもたちの学びの基礎となる重要な要素である。

今日の会議ではみなさんとともに教科用図書の選定について意見交換を行う。

上川管内の子どもたちのために、よりよい教科用図書を選定できるよう、多くの意見をいただきたい。

事務局 この後の議事は、会長に進行願う。

会長 協議会規約第4条第3項の規定により、委員定数22名中全員が出席しているので、直ちに会議を始める。

はじめに、事務局から経過報告願う。

事務局 これまでの経過を報告させていただく。

6月3日に開催した第2回教科用図書採択教育委員会協議会において、教科用図書調査委員をご確認いただき、その後の進め方やスケジュールをご確認いただいた。

6月24日には71名の調査委員の出席のもと、第1回教科用図書調査委員会を土別市民文化センターで開催し、調査研究の要領、観点、報告書の作成等について確認した。

調査委員の方々には、その日から自宅において各種目の調査研究をしていただき、7月1日と2日には、同会場で開催した第2回教科用図書調査委員会において意見交換を重ねたうえで、小委員会ごとに「報告書」を作成していただいた。

この報告書につきましては、皆さんのお手元に7月11日付けで郵送させていただいた。

また、各市町村教育委員会において期間を設定し、実施していただいた、教科書展示会では、4,375人の閲覧があり、7件の意見の提出を受けた。

本日は、種目ごとに教科用図書を採択していただくので、よろしく願います。

会長 それでは、令和7年度から使用する中学校用教科用図書の採択を行う。

事務局から説明願う。

事務局 この後、種目ごとに教科用図書を採択していただくので、よろしく願います。

議事を進めるにあたり、参考とする資料について確認する。一つは北海道教育委員会から送付されている「令和7年度から使用する中学校用教科用図書採択参考資料」。二つは「令和7年度から使用する中学校用図書に関する調査研究報告書」。三つは各社の「教科用図書の趣意書」及び教科用図書の見本である。既に、各委員は、これらにお目通しいただいているものと考えている。

会長 はじめに、国語科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 国語科小委員長の千葉である。国語科の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに、「東京書籍」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、主体的、対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第2学年の「正しい言葉」は信じられるかにおいて、構成や表現を工夫して記事を書いたりするなど、単元構成や学習活動が工夫されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第1学年のp130・131『写真』の意見文において、上士幌町で行われている「北海道バルーンフェスティバル」が取り上げられている。

● 次に、「三省堂」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年のp43からの「2 わかりやすく伝える」において、2つの文章を読み比べ、構成や展開について考えたりするなど、単元構成（学習活動）が工夫されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第2学年のp192～194「動物園でできること」において、旭山動物園の取組が取り上げられている。

● 次に、「教育出版」について報告する。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第2学年のp48「日本の花火の楽しみ／水の山富士山の単元」において、文章を読み比べて筆者による論の構成や表現の意図の違いを捉えたりするなど、単元構成が工夫されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、p292第1学年の「銀のしずく降る降る」において、『彼女はアイヌの女性であった』という記述や知里幸恵

が書いた習字の写真などが取り上げられている。

- 次に、「光村図書」について報告する。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年のp95「心の動き」の単元において、p115の「学びへの扉」で場面や描写を結びつけて内容を解釈するなど、単元構成（学習活動）が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第5学年「この本、読もう」で「知里幸恵物語アイヌ『物語』を命がけで伝えた人」が、第6学年付録で「アイヌ語」について取り上げられている。
- 以上で国語科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答に入る。国語科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：全国学力学習状況調査、あるいは高校入試において求められている、読み解く力、読解力を高めるための配慮、工夫について、説明願う。

A：これまでの知識だけで読み解くような問題ではなく、複数の情報ソースから情報を得て、自分の考えをまとめていくという力が求められているため、各者ともそのような力を付けられるような単元等が配列されている。例えば、「東京書籍」では、集めた情報の整理の仕方を身に付けて、図表を入れたレポートを作成する言語活動などが取り上げられており、その他の者についても、同じような取り上げ方で、読解力等が身に付けられるようになっている。

Q：小中連携、それから中高連携について、それぞれ各者どのような特徴的な配慮がされているかについて説明願う。

A：国語科の指導内容というのは、系統的、段階的に上の学年に繋がっていくとともに、螺旋的、反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としているので、そのような現行の学習指導要領の指導事項と言語活動例に沿って、例えば「東京書籍」では、第1学年の最初の教材、「朗読の世界」のフォントを小学校高学年と同じ大きさの教科書体で示すなどして、「中1ギャップ」への配慮がなされている。また、高校への接続では、高校第1年の必修科目に言語文化があり、それを見据えたコラムが設けられるなど、高校への橋渡しになるような社会性の高い題材や言語活動が設定されているという特徴がある。「三省堂」については、小学校との繋がりで、第1学年の第1単元は詩の形式を学習できる「朝のリレー」、それから、読む楽しさを味わえるよう、話し合いに生きるグループディスカッションなどを配置して、学級にふさわしい単元構成、教材配列としている。また、高校への橋渡しになるように、ものの見方を広げて深め、考え方を、生き方を考えさせる「闇の文化」とか「私とは何か」などの教材を配列しているという特徴がある。「教育出版」については、小学校との繋がりで、「言葉と出会う」、「聞くということ」、「読むことで意味を作り出す」

という単元を1年生の冒頭で配列している。小学校の学習を踏まえて中学校の学習を展望できるようにしている。また、高校への繋がりや、読むことの学習に円滑につながるよう、高校の教科書で多く取り上げられている執筆者がおり、例えば村上春樹、川上弘美、小川陽子などの文書を掲載していると、そういう特徴がある。最後に、光村図書は、小学校との繋がりとして、第1学年の冒頭に「言葉に出会うために」という単元を設けて、明るくスタートできるような、小学校で学んだ基礎基本をいつでも確認できるような配慮をしている。また、高校への繋がりや林四郎の論説文を挙げたりして、高校への接続を意識した教材を配置したり、古典名作選に、高等学校で使うような作品を配置したりといった配慮をしている。

Q：今日の課題、SDGsやその他課題について取り扱っている内容の説明願う。

A：「東京書籍」では、情報と論理の学びという教材で、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係の捉え方、あるいは比較、分類、関係付けなどの情報の整備の仕方を、身近な例を題材にして体系的に学べるようにしているという特徴がある。「三省堂」については、各学年の第6単元に、グラフや図表などの情報とともに、それを文章と関連付けながら自分の考えを深める情報の扱い方に関する単元を設定している。「教育出版」では第1学年で「全ては編集されている」、第2学年では「SNSから自由になるために」、第3学年では「メディアリテラシーはなぜ必要か」など、情報メディアと表現の教材を各学年に設けている。これによって、メディアの特性や情報をもたらすメディアリテラシーに関する理解を深められるようにしている。最後に、「光村図書」では、情報と情報の関係を扱う思考のレッスン、それから、情報の整備を扱う情報整備のレッスンを特別に設けており、練習問題を通して実践的に知識や技能を習得できるように配慮するとともに、各学年の情報をかけるSDGsという単元で、引用の仕方、著作権、それから情報モラルを扱っている。

Q：各者の特徴的なことについて説明願う。

A：全者、学びやすさに配慮したつくりになっている。「東京書籍」については、調査研究を進める中で、新採用の教員であってもこの教科書に沿って学習を進めれば主体的、対話的で深い学びの実現に自然にたどり着くような配列、教材構成になっているという話題が出た。それから「三省堂」については、調査研究の中ではそれほど主立った意見は出なかったが、教材冒頭の目標や学習の流れで学習課題を設定して見通しを持たせ、振り返りもできるというオーソドックスな内容になっているという意見も出た。「教育出版」は、「学びナビ」が特徴的で、教材の最初に置いていることで、何をこの教材あるいは単元で学ぶのかについて非常に見通ししやすいのではないかとこのような意見が出ていた。同じく「光村図書」も、「教育出版」同様に、「学びの扉」で学習課題を設定させたり、各教材の後ろに振り返りを設定したりしているなどの特徴があるという話が出ていた。

Q：各者の単元の導入や見通しの工夫について説明願う。

A：教科書の単元の導入の方法とか見通しについては、子供たちが戸惑わないように丁寧に工夫して、見通しを持って学習できるように工夫されている。「東京書籍」は手引きや学習の流れで学習課題を設定しながら、何を学ぶのかという見通しを持てるようにしている。「三省堂」は教材冒頭に目標とか学習の流れを設定しており、これを見れば生徒が見通しを持てるような工夫となっている。「教育出版」については、「学びナビ」を見れば、学習課題も設定

でき、見通しも持てるというような特徴になっている。「光村図書」も、「学びへの扉」が冒頭にあり、そこで学習課題を設定し、見通しを持てるようになっている。また、巻頭において、その1年間の見通し、それから巻末では3年間の見通しについては、各者と共通で見通せるような設定ページがある。

Q：大きな題材の構成について工夫されている点とか、優れている点について説明願う。

A：平成20年の国語科改訂の趣旨には、例えば、文学的文章の詳細な読み取りにあまりにも偏りすぎて、登場人物の気持ちばかり追いかけて、何を学ぶべきというところを見失っているといった意見があり、その改訂の趣旨から「単元を貫く言語活動」を単元についてしっかり見取るといった趣旨の記載があった。それは間違いなく引き継いでいる。今回、国語科については、3領域ではなくて、他の教科と同じように、「知識、技能」それから「思考、判断、表現」の中に3領域、「話すこと、聞くこと」「書くこと」、「読むこと」というのが入っている。前回の学習指導要領改訂の流れを受けて、現行学習指導要領においても、自分の考えを形成するという学習過程を重視するという流れは変わっていない。そして、どの領域に特化するということではなくて、3領域満遍なく学習できるように教科書を構成しているという点については、どの教科書もそのようになっている。例えば、「東京書籍」では、育成を目指す資質能力を「言葉の力」というコーナーで示している。そこで、「読むこと」、教材で習得したことを、それに続く「話すこと、聞くこと」、「書くこと」を、教材で活用、定着できるように領域間の関連を図っている。「三省堂」も読み方として、学んだ例示を生かして論説文を「読む」と「書く」の繋がり、あるいは、「小さな手袋」という教材では、そこに込められた思いを踏まえて登場人物になり、手紙を書くといった、「読む」と「書く」の関連を付ける構成になっている。「教育出版」は、各領域の「学びナビ」、ここに特徴がある。それから、学習の手引きの「道しるべ」に、指導内容については、4月から3月までの1年間、それから、1年生から3年生へと、段階的に重点を積み上げられるような構成になっている。習得と活用、螺旋的に難易度を上げながら反復していくスタイルになっている。そのため、系統的な単元構成と言える。「光村図書」についても、育成すべき資質能力が習得、それから活用を繰り返しながら螺旋的に高まるよう、学習指導要領に示された言語活動例が3学年の各段階で漏れなく扱えるように教材が作成、配列されていると、そのような特徴がある。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、国語科の採択の審議に入る。

- ・4者とも、「個別最適かつ協働的な学び」、「主体的、対話的な深い学び」を意識した内容になっている。全ての子供たちの学びの保障につながるよう、ユニバーサルデザイン、カラーユニバーサルデザイン、二次元コードやURL等、様々な工夫がされている。小中連携、それから中高連携を意識した内容も取り組まれている。その中で「教育出版」の「学びナビ」は見通しを持って学習ができるという点で、子供たちが学習しやすいと考える。学びの見通しが1番もちやすいということ言えば、「教育出版」がよいのではないか。
- ・「光村図書」の題材の配列がどう繋がっているのか、これからどう繋がっていくのかについて、

二次元コードを用いて示されており非常に分かりやすい。ただ、「教育出版」の「学びナビ」は、例えば語り手の位置について、「1年生ではこんな風にして語り手を学んできた」それでは今回「走れメロス」では…のように、応答の一文を挙げて、語り手について解説して学びへの意欲を高めているあたりは、やはり優れていることから、「教育出版」を推薦したい。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、国語科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、国語科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、書写について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 書写小委員長の桑内である。書写の調査結果について、報告申し上げる。

- 各者の書写の各学年の目標及び内容等に係る「取扱内容」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、第1学年では、「仮名を整えて書くために気を付けることを考えたり、仮名の書き方と字形の特徴について理解したことを自分の書いた文字で振り返ったりするなど」、第2学年では、「行書と仮名の調和について考えたり、どのように行書と仮名が調和しているのかを筆圧の変化、筆脈の用語を使って説明したりするなど」、第3学年では、「現代につながる文字の役割について考えたり、文字が果たしてきた役割や現代とのつながりについて話し合ったりするなど」、考えを広げたり深めたりできるよう学習活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道とかかわりある内容としては、「北海道庁」の石碑の文字や「北海道」の雑誌の表紙等、全8箇所に取り上げられている。
- 次に、「三省堂」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書き方を学ぼう」を参考にして、第1学年では、「楷書と比べて点画の丸みがどこにあるかを考えたり、点画の丸みを理解して書くことができたかを振り返ったりするなど」、第2学年では、「楷書と比べて筆順がどのように変化しているかを考えたり、筆順の変化を理解して書くことができたかを振り返ったりするなど」、第3学年では、「社会で活躍する手書き文字の達人の紹介を参考にして、効果的に文字を書くことについて考えたり、文字の魅力はどのようなところかを話し合ったりするなど」、考えを広げたり深めたりできるよう学習活動が工夫されている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道とかかわりある内容としては、第2学年の「書いて身につけよう」において、「北海道」の文字等、1箇所では取り上げられている。
- 次に、「教育出版」である。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「考えよう」を参考にして、第1学年では、「楷書と仮名を調和させるための書き方を考えたり、漢字と仮名の大きさ、文字の中心、字間、余白について話し合ったりするなど」、第2学年では、「漢字の行書の連続、省略、変化と仮名の調和を考えたり、行書と仮名の調和や配列に気を付けて硬筆で書いたりするなど」、第3学年では、「自分で取材した文字や教科書の写真の文字について印象や表現効果を考えたり、考えた内容を取材レポートにまとめ発表したりするなど」、考えを広げたり深めたりできるよう学習活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道とかかわりある内容としては、「登別 地獄谷」の看板や「釧路湿原駅」の看板等、全8箇所では取り上げられています。
- 次に、「光村図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「学びのカギ」を参考にして、第1学年では、「楷書と行書を比べて点画がどのように変化しているかを考えたり、点画の変化について学習したことを生かして硬筆で書いたりするなど」、第2学年では、「楷書と行書を比べて点画が省略されているところを考えたり、点画が省略される理由を話し合ったりするなど」、第3学年では、「身の回りには、どのような文字があるかを考えたり、文字から受ける印象や、気付いたことを話し合ったりするなど」、考えを広げたり深めたりできるよう学習活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道とかかわりある内容としては、北海道の「BOYSBEAMBITIOUS」の石碑の写真等、全7箇所では取り上げられている。
- 以上で書写の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。書写の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：書写で学んだことを日常生活あるいは他教科で生かす工夫について説明を願う。

A：書写で学んだことを生かすために、各者様々な教材を使っている。「東京書籍」はお礼状、年賀状、本のポップ等を作成することで、特に国語科との連携を図っている。「三省堂」は、情報誌、新聞、名言集等などの活動を意図的に入れ、例えば総合的な学習との連携等を図っている。「教育出版」は、本の帯、新聞案内状等を作成することで、特に国語科、あるいは総合的な学習の時間、学校行事等の連携を図っている。「光村図書」は、ポスター、新聞、レポートなどの作成を通して、主に国語科との連携を図っている。これはそれぞれの会社の一例であり、例えば年賀状については、取り上げ方は違うが、それぞれの会社で取り上げている。

Q：各者の総ページ数と各者のページ数の違いについて説明願う。

A：「東京書籍」は146ページで増減なし。「三省堂」は122ページで前回より約6パーセント減。「教育出版」は総ページ数146ページで増減なし。「光村図書」は総ページ数166ページで前回より5パーセント増。このページ数の違いについては様々な要素があるが、1つは写真や資料にかかる部分の取り上げ方。2つ目はワークシート、ワークブック的なものの扱い。単元の中に組み入れている場合もあり、者によっては別冊になるものもある。それぞれ子供たちが的確に技能を身に付けられるように工夫していると、その工夫の仕方によって若干違いがある。

Q：子どもたちの多様性への配慮について説明願う。

A：4者とも全ての生徒にとって使いやすい教科書を目指して、ユニバーサルデザインの観点から書体、レイアウト、配色等に配慮、工夫がされている。これは他の教科書と比べたわけではないが、やはり文字を書くということの教科になり、他の教科よりはより丁寧に選んでいるという印象である。具体的には、「東京書籍」は聞き手によらず学習しやすいように教材文字を配列されている。「三省堂」は色の濃淡、罫線の使い分けまで明確にし、使いやすくしている。「教育出版」は、左利きで書く場合の用具の置き方なども掲載し、対応を図っている。用具の置き方については、4者ともより丁寧に写真等を使って掲載されていることを申し添える。また、「光村図書」は、独自に開発したオリジナルの教科書体を使って配慮、工夫がされている。

会 長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、書写の採択の審議に入る。

- ・4者とも本当に学び方の提示が上手で、主体的な学びへの工夫がされている。その中で、各領域や他教科で扱う言語活動とか社会で活かせるように工夫されているのは「教育出版」が優れている。
- ・教師が実際に教師の子供の前で書いてみせて、そして筆遣い等について気付いて学んでという、それが一般的な授業の流れであることを踏まえると、その手本が全て半紙の実物大で提示されていることが他の者にはない「光村図書」の大きな特徴である。それは、子供たちにとって、空間把握を非常にしやすい点で効果がある。また、二次元コードで収録されている動画が、他者は全部上からだけなのに対して、斜めからとか、そして筆使いが見やすいような動画であり、かつその途中で音声だとか文字でそのポイントが示される。子供にとって学びやすいとい

う点で「光村図書」がよいのではないか。

- ・総ページ数について、「光村図書」だけが5パーセント増となっており、写真や資料といった子供たちが書写に対して興味・関心をもたせるための1つの手立てとして優れている。しかし、書写の学習とは何かについて考えた時に、硬筆だけではない、毛筆だけでもない書く喜びというか、率先して自分で書いてみよう、自分の考えを書いてみよう、感じたこと考えてみようといったところに繋がる子供に育てていきたいということを総合的に考えると、「教育出版」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、書写については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、書写については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、社会科地理的分野について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 社会科小委員長の見玉である。社会科地理的分野の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、学習の導入部に、生徒の興味・関心を引き出す「導入資料」を設けたり、小集団での参加型学習である「みんなでチャレンジ」を配置し、グループで対話したりするなどの学習活動が取り上げられている。具体的には、学習のまとめにおいて、学習した知識を振り返り、思考ツールなどを用いて考えを整理することを通して探求課題を解決できるように構成している。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として自然の特色を生かした産業や、今に受け継がれるアイヌ民族の文化を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。特に、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、授業の導入の場面で、生徒の興味・関心が高まるような写真・図版を提示したり、本時の学習内容を確認し、自分の言葉で表現する「確認」「表現」のコーナーを配置して、他者と交流したりするなどの学習活動が取り上げられている。具体的には、学習を振り返る「学習のまとめと表現」を章・節の最後に設け、学習を整理しつつ、さらに深められるように構成している。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として北海道における自然環境

を生かした産業や、持続可能な社会づくりの視点からアイヌ文化を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 次に、「帝国書院」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、単元のはじめに、大判な写真から地域を概観する「写真で眺める」を設定したり、単元のまとめに「学習を振り返ろう」を配置し、思考ツールを活用して他者と対話したりするなどの学習活動が取り上げられている。具体的には、単元末では思考ツールにまとめ、対話を通して考えを深めることを通して、地理的特色を自分の言葉でまとめられるように構成している。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として北海道における自然を生かした観光産業や、自然とともに生きるアイヌ民族の生活や文化を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 次に、「日本文教出版」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、学習したことを生かして、生徒が自分で考えたり、対話したりするための具体的な問いや活動を提示する「議論してみよう」を設けたり、「学び合い」マークを配置し、グループで話し合ったりするなどの学習活動が取り上げられている。具体的には、単元末では習得した知識を確認し、編・章・節の間に答える活動を通して、学びをさらに深められるように構成されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道の地域の状況等に応じた内容として北海道における自然環境を生かした観光や、アイヌの人々の生活や文化、アイヌ語に由来する主な地名を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 以上で社会科地理分野の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。社会科地理分野の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：北海道や上川管内との関わりのある内容はどのように取り扱っているかについて説明を願う。

A：「東京書籍」では、日本の諸地域における北海道地方の学習では、教科書256ページより自然環境の視点から12ページにわたり写真や各種統計資料等を添えて扱われている。また、アイヌの人たちの歴史、文化等については258ページを中心に全5ページ、北方領土に関する内容については28、29ページをはじめ全9ページ取り扱われている。具体的には、アイヌの人たちの歴史、文化等については7箇所、また北方領土については16か所で取り扱われている。

「教育出版」では日本の諸地域における北海道地方の学習において、教科書262ページより、

自然環境と関連する産業の変化の視点から16ページにわたり写真や各種統計資料等を添えて扱われている。また、アイヌの人たちの歴史、文化等については、276、277ページを中心に全11ページ、北方領土に関する内容については20ページをはじめ全14ページで扱われている。具体的には、アイヌの人たちの歴史、文化等が取り扱われている箇所は22か所、北方領土に関するものが18か所となっている。次に、「帝国書院」である。日本の諸地域における北海道地方の学習では、教科書265ページより自然環境の視点から全16ページにわたり写真や各種統計資料等を添えて扱われている。また、アイヌの人たちの歴史文化等では、280ページを中心に全6ページ、北方領土に関する内容については20ページをはじめ全5ページで扱われている。「帝国書院」の具体だが、アイヌの人たちの歴史、文化等の取り扱い箇所が13箇所、国交、領土に関する取り扱い箇所が10か所となっている。「日本文教出版」である。日本の諸地域における北海道地方の学習では、教科書266ページより、自然環境の視点から全16ページにわたり、写真や各種統計資料等を添えて扱われている。また、アイヌの人たちの歴史、文化等では、278ページをはじめ全3ページ、北方領土に関する内容については、20ページをはじめ全8ページで扱われている。具体的には、アイヌの人たちの歴史、文化等の取り扱い箇所が6箇所、北方領土についての取り扱い箇所が17箇所となっている。

Q：二次元コードやURLについて、各者の特徴的な部分について説明願う。

A：URLや二次元コードの掲載の状況、また学習者用デジタル教科書の発行予定等については各者1人1台端末を活用した学習活動を想定した二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。また、学習者用デジタル教科書についても、いずれの者も発行を予定している。

Q：多様な学習者への配慮について説明願う。

A：いずれの者も教科書全体としてユニバーサルデザインを採用しているという点が共通点としてあげられる。「東京書籍」は、教科書の学び方、使い方と学び方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう教科書全体を通してユニバーサルデザインを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。また、「教育出版」については、教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう教科書全体を通してユニバーサルデザインを使用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動と二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。また、「帝国書院」また「日本文教出版」も同じような取扱になっている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、社会科の採択の審議に入る。

- ・「東京書籍」はデータが新しかったり、「帝国書院」は掲載されている地図が優れているなど、それぞれによさがある。そのなかで、中学生の教科書という視点から、子供たちがどのように学習に入っていくかという導入の場面で、「教育出版」の場合は、一番最初に「地理の学習をするにあたって」という、より直接的に学習の学び方を設定しているよさがある。小学校からの学びの接続を考えると、その点で「教育出版」が優れている。また、「教育出版」の大きな

特徴は、マークの中にCUD（カラーユニバーサルデザイン）が採用されており、様々な子供に対する配慮があり、前回と比べてもイラストの配置とか文字の並びが非常に見やすくなっている。総合的に考えて、「教育出版」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、社会科地理的分野については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、社会科地理的分野については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、社会科歴史分野について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 社会科小委員長の見玉である。社会科歴史分野の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、近世の社会の様子学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、屏風絵等の複数の資料を比較し、時代の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、近世の日本において、アイヌ文化とその継承について（120～121ページ）、アイヌ文化の成立、展開、継承する動きが取り上げられている。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1章の「身近な地域の歴史を調べよう」において、身近な地域の歴史を調べる学習活動の中で、18ページの「発表して振り返ろう」にあるように、対話的な学びの進め方の例を紹介し、生徒が関心や意欲を高められるようにしている。また94ページ～95ページにあるように、各章末でその時代の特色について振り返り、次章のとびらで資料の読み解きを通して時代の変化について考察する構成にして「見方・考え方」を働かせた学習を促し、深い学びを支援している。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第5章「日本の近代化と国際社会」の179ページ「北海道の歴史を調べよう」の中で、知里幸恵を取り扱う中で、旭川に居住するアイヌの人々について取り上げている。
- 次に、「帝国書院」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第2学年（154～155ページ）の「世界有数の百万都市江戸」において、江戸時代の学習において、学習課題を設定し、見通しを持たせるとともに、イラスト等の複数の資料を基に江戸の人々の暮らしについて話し合い、考えを広げたり深めたりする等の学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第2学年の「北海道の開拓（197ページ）の」の左上地図「④屯田兵の出身地」において、「旭川」の地名が、その右隣の天川恵三郎の囲みの中に、「旭川」「旭川近文」の記述が取り上げられている。さらに、「進む開拓と産業の発展（199ページ）」の「⑧北海道の開拓」の地図の中に、「忠別（現旭川市）」の記述がある。
- 次に、「山川出版社」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、日露戦争と東アジアの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、風刺画や地図などの様々な資料を基に日露戦争が与えた影響について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、例を挙げると、「地域からのアプローチ⑤札幌（205ページ）」などで、北海道について取り上げている。
- 次に、「日本文教出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5編第2章「日本の近代化」の学習の157ページで、「学習の見通しをもとう」において、編（章）の問いに対する疑問や答えの予想をポートフォリオに書き込むことで、学習の見通しをもたせ、主体的な学習の取組につなげている。また、156ページで「学び合い：気づいたことを出し合おう」という活動を設け、対話により学びを深める工夫がなされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、例を挙げると、強度の画定と隣接地域（187ページ）などで、北海道について取り上げている。
- 次に、「自由社」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、

調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、二つの世界大戦と日本の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、二つの世界大戦の共通点と違いについて話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、例を挙げると、日本の近代化とアイヌ（175ページ）などで、北海道について取り上げている。
- 次に、「令和書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第5章の明治維新の学習において、270ページのように学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、404ページのディベートを通して明治維新による近代化の様々な側面について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、例を挙げると、鎖国下の対外窓口（217ページ）などで、北海道について取り上げている。
- 以上で社会科歴史分野の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。社会科歴史分野の調査研究報告について質問等はあるか。

- Q：いわゆる「知識偏重」ではなく、思考力、判断力、表現力が重視されたり、歴史的なものの見方とか考え方の習得を目指したりするための各者それぞれ工夫、配慮がされている点について、「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者を説明願う。
- A：「東京書籍」は、歴史学習の基礎的な知識、技能を系統的に習得させるスキルアップを設け、学習に必要な機能を確実に定着できるようにしている。「教育出版」は第2章「原始・古代の日本と世界」の24～25ページ「エジプトはナイルの賜物」で25ページの最後に「確認：3つの文明がおこった時期や地域を表にまとめよう」「表現：3つの文明に共通する特色は何か説明しよう」で本時の学習を振り返り、基礎・基本の定着とその活用を図っている。「帝国書院」に技能を磨くというコーナーが14か所設定されており、資料や図表の見方のスキルや多面的、科学的に分析する力を身につけることができる工夫がなされている。
- Q：北海道の歴史及びアイヌ民族の取り上げ方について説明願う。
- A：「東京書籍」は、アイヌ文化とその継承について（120～121ページ）など、アイヌ23、北方領土9、道内の市町村等を取り上げている箇所76である。「教育出版」においては、第7章「現代の日本と世界」の学習において、266ページから267ページ「隣国と向き合うために一日本の領土をめぐる課題」の学習で、北方領土について取り上げている。「帝国書院」については、上川関連の記述は、「北海道の開拓（197ページ）」の左上地図「屯田兵の出身地」

に「旭川」の地名が、「進む開拓と産業の発展（199ページ）」の地図中に、「忠別（現旭川市）」の記述がある。

Q：URLや二次元コードの掲載の状況や、学習用デジタル教科書の発行予定について説明願う。

A：「東京書籍」は、導入・展開・まとめの学習段階に応じて最適な二次元コンテンツを用意している。二次元コードを紙面定位置に掲載している。「教育出版」は、二次元コードについて、第6章「2度の世界大戦と日本」の219ページ「6. 憲政の本義を説いて」の「歴史の技～新聞を読み解こう」に配置し、より詳しい資料の読み解きのステップやポイントを動画で見ることができる。「帝国書院」は二次元コンテンツは4ページのように全391ある。デジタル教科書は各者発行予定である。

会 長 他に質問等はないか。（なし）

※小委員長退席

引き続き、社会科の採択の審議に入る。

- ・歴史の教科書は者数が多かったため、いくつかの観点設けて調査研究し、最終的に「教育出版」、「東京書籍」、「帝国書院」の3者まで絞り込んだ。3者の教科書は、どれも学習課題ですとか学習の見通し、学習の振り返りの視点が明記されていて、主体的、対話的で深い学びを実現しやすいようによく構成されている教科書になっている。その中で、「東京書籍」は他社の教科書に比べて動画のコンテンツの内容が充実している。また、「帝国書院」は、その時代の様子をイメージしやすい「タイムトラベル」というイラスト資料がとても分かりやすく、本文中にインデックスを付けて、イラスト資料を参考にしながら学習を進めるなど、工夫されているのがとても大きな特徴である。「教育出版」については、歴史の学習の導入段階で、ゲームとかクイズを活用したり、歴史への興味・関心を深めさせたりするように、多くのページを割くなど、最初の学習の導入時をすごく大事にしており、小学校の学習の仕方を踏まえて、中学校の歴史の学習の進め方について、丁寧に扱われている。また、生徒が自分の地域に関心を持てるように、身近な地域の歴史を調べる学習かのページがとても他者に比べて充実している。さらに、6つの特設ページがあり、その中の1つが、北海道の歴史が使われており、アイヌ民族と文化の保護が取り上げられている点から、現在使われている「教育出版」を継続させることがよいのではないかと。
- ・中学校において先ほどの地理、この歴史と、学びを続ける時に、学びの連続性を考えたときに、まだ現行学習指導要領の中ということもあるため、「教育出版」で継続して学び進めることがよいのではないかと。また、アイヌ文化については、知里幸恵をきちんと取り扱っており、各学校においても学びを深められると考える。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、社会科歴史分野については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、社会科歴史分野については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、社会科公民分野について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 社会科小委員長の見玉である。社会科公民分野の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元の学習課題を立てる「導入の活動」や単元の学習課題を解決する「まとめの活動」を設けるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。具体的には、「私たちの暮らしと経済」の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、経済活動の意義や市場経済について調べ、市場の働きに委ねることが難しい諸問題について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、地方自治にかかわる学習においては、芽室町の議会改革・活性化（114ページ）について、人権にかかわる学習においては、旭川市のアイヌ語の地名表示板（50ページ）について掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、生徒の生活体験から単元の学習課題を捉える「ウォーミングアップ！公民」や章・節の学習を振り返る「学習のまとめと表現」を設けるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。具体的には、「安心して豊かに暮らせる社会」の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、社会資本の整備や環境の保全について調べ、市場の働きに委ねることが難しい諸問題について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、地方自治にかかわる学習においては、倶知安町のみんなで親しむ雪条例（117ページ）について、人権にかかわる学習においては、名寄市の「コロナいじめゼロ宣言」のポスター（53ページ）を掲示するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。
- 次に、「帝国書院」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、イラストを読み解き、単元の見通しをもつ「学習の前に」や単元の学習を振り返る「学習を振り返ろう」を設けるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。具体的には、「経済活動と私たち」の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるととも

に、経済活動の意義や金融のしくみと働きについて調べ、市場の働きに委ねることが難しい諸問題について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、現代社会における文化にかかわる学習においては、北海道のアイヌ民族が受け継いできたアイヌ文化（15ページ）について、地方自治にかかわる学習においては、旭川市の旭山動物園条例（103ページ）について掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 次に、「日本文教出版」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、身近な事例から単元の学習課題を立てる「学習のはじめに」や単元の学習課題を解決する「まとめと振り返り」を設けるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。具体的には、「国民主権と日本の政治」の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、政党の役割や地方自治の基本的な考え方について調べ、国民の政治参加について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、日本の伝統文化にかかわる学習においては、白老町の国立アイヌ民俗博物館（20ページ）について、地方自治にかかわる学習においては、夕張市の寄付を活用した取り組み（118ページ）について掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 次に、「自由社」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、身近な事例から単元の学習課題を立てる「学習のはじめに」や単元の学習課題を解決する「まとめと振り返り」を設けるなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。具体的には、「国民主権と日本の政治」の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、政党の役割や地方自治の基本的な考え方について調べ、国民の政治参加について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、日本の伝統文化にかかわる学習においては、白老町の国立アイヌ民俗博物館（20ページ）について、地方自治にかかわる学習においては、夕張市の寄付を活用した取り組み（118ページ）について掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

●以上で社会科公民分野の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。社会科公民分野の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：動画コンテンツやその他特徴のあるコンテンツの採用状況について説明願う。

A：「東京書籍」の二次元コードは、学習の入口に活用できる動画コンテンツや、自分の考えを深めたりまとめたりするための思考ツールなどが掲載されている。「教育出版」の二次元コードは、理解を促すための動画や、繰り返し取り組んで習得を目指す語句クイズの二次元コードなどが掲載されている。「帝国出版」の二次元コードは、学習内容を定着・深化させるコンテンツや、端末を活用しながら学習できるワークシートなどが掲載されている。「日本文教出版」の二次元コードは、個別最適な学びを実現したりするために「ポートフォリオ」などの3つのコンテンツなどが掲載されている。「自由社」は1人1台端末を活用した学習活動として、インターネットでの検索方法を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。

Q：「知識及び技能」の内容について、目標を達成するために、どのような学習活動が取り扱われているのか説明願う。

A：「東京書籍」では、1単位時間の紙面を、興味を引き出す導入資料、1時間を貫く問いである学習課題、丁寧に分かりやすい本文、1時間の学習課題を解決する「チェック&トライ」の流れで構造化し、学習内容を確実に定着できるよう構成されている。「教育出版」では、「知識及び技能」を育成する学習活動への支援として、本ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。「帝国出版」では、見開き1時間の紙面が、興味・関心を引く「導入」、学習を見通せる「学習課題」、丁寧にわかりやすい本文、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構成され、知識・技能が確実に習得できるよう構成されている。「日本文教出版」では、確認コーナー、表現コーナーが設けられ、基礎的な知識及び技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されており、習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化できるよう構成されている。「自由社」では、重要語句は「ミニ知識」のコラムを設けて解説し、生徒が公民にかかわる重要語句を正確に理解できるようにしています。また、理解を深めることが必要な場面では、「もっと知りたい」を設けて、より深い理解ができるよう構成されている。

Q：各者のSDGsの取扱について説明願う。

A：「東京書籍」では、教科書全体を環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術のテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められるようにしている。「教育出版」では、特設ページが設けられている他、SDGsとの関連を示すマークを付して、毎時間の学習との連携や振り返りを図る工夫がなされている。「帝国出版」では、各章末の「学習を振り返ろう」、最終ページでは、SDGsの視点を活用して探究課題を設定することで、第5部「課題探究学習」につながるよう、工夫されている。「日本文教出版」では、17の目標を示すとともに、関連する内容を第1編から第4編までの学習の随所に登場させており、教科書全体を通してSDGsについて考えられるようにしている。「自由社」では、終章で「持続可能な社会を目指して」というテーマを設定していて、ディベートや論文形式で内容を深められるようにしている。

会長他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、社会科公民分野の採択の審議に入る。

・公民の学習は、社会科の学習の集大成と言われており、地理的分野だとか歴史的分野の学習の成果をリンクさせて学んでいく必要がある。例えばSDGsの取り扱いについて、「教育出版」では公民の各単元のところに、この学習は17のテーマの中の目標の中のこれに関連していることで生徒が直感的に理解できるようマークがついており、学びの関連の図り方において優れている。また、地理、歴史、そして公民という繋がりを考えた中で、学びの連続性も考慮したうえで「教育出版」がよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、社会科公民分野については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、社会科公民分野については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、地図について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 地図小委員長の佐藤である。地図の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連付けてとらえたり、考えを広げたりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、「北海道地方の資料」「日本の農林水産業」の資料において、自然や農業等の資料から上川の特徴を捉えることができます。特に、「農業と畜産業」では、上川の野菜・米の生産の割合が取り上げられている。
- 次に、「帝国書院」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「地図で発見！」のコーナーを設け、地理的な見方・考え方を働かせる問いを追究したり、考えを説明したりするなどの学習活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、「北海道地方の資料」「日本の農林・水産業」の資料において、自然や農業等の資料から上川の特徴を捉えることができる。特に、「各地の農業生産」では、富良野が取り上げられている。
- 以上で地図の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。地図の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：北海道や上川管内との関わりのある内容について説明願う。

A：まず「東京書籍」についてである。アイヌについては「明治時代の開拓とアイヌ語由来の地名」で、北方領土は「日本の周辺」「北海道地方」で取り扱われている。上川管内については、「北海道地方の資料」において、自然や農業等の資料から上川の特徴を捉えることができる。特に、「農業と畜産業」では、上川の野菜・米の生産の割合が取り上げられている。次に「帝国書院」である。アイヌについては「アイヌ語地名と開拓の歴史」で、北方領土は「日本の領土」「北海道地方」で取り扱われている。上川管内については「北海道地方の資料」において、自然や農業等の資料から上川の特徴を捉えることができる。特に、「各地の農業生産」では、富良野が取り上げられている。他に、「おもな都市の月平均気温・月降水量」では旭川が、「日本の市と人口」では旭川・名寄・士別・富良野が取り上げられている。

Q：ユニバーサルデザインなどにおける配慮、工夫などについて説明願う。

A：まず「東京書籍」についてである。全ての生徒にとって、視認性の高いユニバーサルフォントの使用や、グラフや地図などでは、見分けやすい色を使用するといった工夫がなされている。次に「帝国書院」である。全ての生徒にとって、読みやすいフォントになるような配慮や、カラーユニバーサルデザインに対応した色彩表現にするといった工夫がなされている。

Q：社会科の3分野（地理・歴史・公民）との関連について説明願う。

A：「東京書籍」においては、例えば14ページの4番、「日本の主な公害」などで歴史と公民のマークがついている。また、15ページの「世界の宗教」においても歴史や公民のマークがついており、こういったところで、歴史や公民を扱う時にも関連付けて、地図帳を開かせながら進める授業を行うことができると考える。「帝国書院」についても、例えば9ページの上部には公民のマークがあり、21ページの宗教のところにも歴史と公民のマークがついており、これも同じように、歴史、公民の授業において関連付けながら活用していくことができる。

会長 他に質問等はないか。（なし）

※小委員長退席

引き続き、地図の採択の審議に入る。

- ・「東京書籍」、「帝国書院」各者ともそれぞれ年々見やすくなっている。その上で、まず索引を見た時に、「帝国書院」は左上上部に統一して載っているため、このページはアジアだとか、アメリカ、北アメリカなど素早く直感的に探すことができる点で優れている。「東京書籍」の場合は見る限り統一されておらず、上部にあったり下部にあったりしている点で、生徒の使いやすさを考えると「帝国書院」がよいのではないかと。
- ・「東京書籍」の近畿地方の歴史を踏まえた地図表示がよい。具体的には、平安時代のそれぞれの都の場所が分かりやすく示されていたり、江戸、東京の鳥瞰だとか現在の霞が関あたりの四行政、立法、これを色分けしてあったりしてとても分かりやすく表示されている。「帝国書院」は、社会科と関連が深いものを分かりやすく表示していること、それから地域の交通や人口、それから歴史的な変化が分かりやすく表現されていて、産業の連関や時代の変化がわかるように資料や地図があり、学びが深まる要素がある点で、「帝国書院」がよいのではないかと。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、地図については、「帝国書院」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、地図については、「帝国書院」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、数学科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 数学科小委員長の田中である。数学科の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに「東京書籍」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、生徒が解決したくなる問題、場面を用意し、簡単な計算で決まりを見つけたり予想したりする活動を設けることで、単元の見通しをもたせている。また、「深い学びのページ」というものがあり、考えを比較し、気付いたことを話し合う協働的な学びができるよう配慮がなされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道や上川管内の地域状況に応じた内容として、第3学年の「三平方の定理」の単元において、ロープの長さを求める活動の中で函館山が取り扱われるなど、全学年で9カ所取り上げられている。

● 次に「大日本図書」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、導入課題「考えよう」で取り組んだことを基に、学習のめあてを設定する流れにし、指導者も生徒も見通しを持って学習に取り組むことはできるようにされている。また、各章の活動で考えを比べたり話し合ったりする場面を積極的に取り入れ、対話的に学習できるようにしたり、各章の利用の課題で新たな問題を発見したりすることを通して、深い学びが実現するように工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、第1学年の正の数と負の数の単元において、負の数について考える場面で、札幌市や旭川市の最低気温が扱われるなど、全学年で11カ所取り上げられている。

● 次に、「学校図書」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、章や節の最初に、身近な場面や数学の学習の中から自ら疑問を発見することで、主体的に学習できるよう配慮がなされている。また、節の扉や数学的活動のページで、他者の考えや対話の場面を適宜提示することで、他者との繋がりを意識しながら協働的に学べるよう工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

りである。

- 「その他」については、第3学年の相似図形の単元において、相似の意味理解を図る活動の中で、北海密道周辺の地図が取り扱われるなど、全学年で20か所取り上げられている。

● 次に、「教育出版」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「?マーク」の学習過程で生じる疑問から、「!マーク」の学習して分かったこと、解決の仕方を見出し、「!マーク」の新たな疑問へ繋げる数学的活動のサイクルを意識した流れにすることで、学習の場面では、学習してわかったことや解決の仕方を協働的に振り返ったり、生徒の誤った考え方を意図的に取り上げたりする場面が設定され、生徒の考えを広げ、深めることができるようにしている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「その他」については、第2学年の巻末「数学ライブラリー」において、図形への興味関心が湧くように美瑛町の色彩の丘の写真が取り扱われるなど、全学年で15か所取り上げられている。

● 次に、「啓林館」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、全ての節の先頭に身の回りの題材などを取り上げた学習の扉を配置することで興味関心を高め、節全体の見通しを持って取り組めるよう配慮されている。また、学習の扉には必ず「説明しよう、話し合おう」が配置されており、解決の見通しを話し合う活動が設定されている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「その他」については、第1学年の巻末の「数学広場力をつけよう」の6章空間図形において、北海道の2021年の入試問題が取り扱われるなど、全学年で9カ所取り上げられている。

● 次に、「数研出版」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、身の周りにある事象から数学を見出すことができるようにしたり、生徒キャラクターの対話場面を示し、課題に取り組む際にどのようなことに着目すればよいか一目で分かるようにしたりすることで、見通しを持たせることができるようにしている。また、リンクの考察や探求というコンテンツが用意されており、条件を変えて考えたり、多様な視点で考えたりすることで、生徒同士が対話する場面を引き出し、考えを深めることができるようにしている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

りである。

○ 「その他」については、第1学年の巻末の「数学旅行」という身の回りの数学事象を紹介する中において、札幌市の桜の開花日や降水確率が扱われるなど、全学年で3か所取り上げられている。

● 次に、「日本文教出版」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、生徒や保護者にも分かるように具体例で明示したり、数学を学習や生活に生かす活動も受けるなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がされている。また、「学び合おう」というものがあり、生徒の多様な考えを引き出す問題で、互いの考えを発表し合う場面が設定されている。巻末には「対話シート」が準備され、自分の考えを広げ、深めることができるよう工夫がされている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」については、第1学年「正の数と負の数」の単元において、負の数について考える場面で、札幌市の最低気温や旧道庁の写真が扱われるなど、全学年で2か所取り上げられている。

● 以上で数学科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。数学科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：各者において、生徒の興味関心を高める工夫について説明願う。

A：日常生活または身の回りの様々な事象、地域の関連する話題などを取り上げながら、生徒が関心を持てるような配慮を各者行っている。

Q：基礎的な知識、技能の習得を図る工夫について説明願う。

A：「東京書籍」は、節末や巻末に、本文の「問」に対応した問題が用意されており、繰り返し練習することで基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう配慮されている。「大日本図書」は、興味・関心をもてるような導入、既習事項を思い出せるような配慮、同じような問題を繰り返し練習できる機会が設けられている。「教育出版」は、章の導入や導入課題では、作業、観察、実験、調査などの活動に取り組んだり、新しい法則や性質を見出した問題場面が設定されている。また、例や例題と問の間にたしかめを設定し、スモールステップで学習が進められるようになっている。「啓林館」は、「例」「例題」では基礎的・基本的な内容を取り上げ、その直後に、それにならって解くことのできる「問」が配置されており、確かな知識・技能が身につくように配慮されている。「数研出版」は、導入課題「TRY」に取り組むことで、既習事項をもとに考え、新しい知識を自ら見出すことができるようになっていたり、学習内容を深く理解できるように、意味や理由を問いかけるようになっていたりしている。「日本文教出版」は、学習した「知識・技能」について、単位時間ごとに、「チャレンジ」問題を位置付けるとともに、「身につける」という二次元コードを示し、その中でランダムに問題を出題し、繰り返し練習させることで知識・技能の定着が図られている。

Q：全国学力・学習状況調査等において、読解力や表現力の育成が課題となっているが、各者の読解力や表現力を育てる工夫について説明願う。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、数学科の採択の審議に入る。

- ・各者とも工夫されているが、「東京書籍」については、ほぼ章ごとに深い学びのページを設定し、その中で思考力、判断力、共有力を育成する工夫がされている。また、章の問題のa問題を1ページ、b問題を2ページにして、思考力、判断力、表現力を伸ばそうとしている。それが活用問題には記述式の問題を取り上げている。それから、「啓林館」については、「説明しよう、話し合おう、まとめよう」など言語活動の場面を設定し、自分の考えを整理し、まとめて伝えたり、他者と自分の考えを比較したりする場面を設定し、このような簡単な表現との育成を図っている。「教育出版」については、授業展開を学びのプロセス、いわゆる問題解決的な学習を基本として、「学び合い、伝え合う、説明しよう、考えよう」などの言語活動を設定するなどして、思考力、判断力、表現力の育成を工夫している。また、生徒に働かせてほしい「見方、考え方」には、吹き出しに「羅針盤マーク」を掲載するなどの工夫が見られる。また、その問題には記述式問題を取り上げている。「日本文教出版」は、キャラクター、吹き出しなどを使い、表現の例、話し合い説明できるかななどを教科書に整理し、取り組ませることで、思考力、判断力、表現力を育成できる工夫がある。
- ・基礎的な知識、技能の習得の工夫について「東京書籍」では、例から問いの流れを取り、確実な定着を図っている。本文では、問いの問題のうち、必ず解けるようになりたい問題にはハートマークが付けられていたり、他の問題に取り組めるスモールステップの構成になっている。「啓林館」では、スモールステップの展開にしたり、計算や式の変化などを丁寧に示したり工夫したりしている。章の問題を充実させ、知識、技能の定着を図ると記載している。「教育出版」については、例から問いやそのステップまでの流れを意識し、確実な定着を図っている。また、例題を生かして問の問題ができるように下位の生徒にも配慮しているというところが特徴的である。それから、「日本文教出版」は補充的な問題や実力アップの問題も設定しており、確実な定着を図っている。きめ細かなステップで展開しているため、基礎的、基本的な内容が理解しやすいように工夫されている。
- ・基礎、基本の定着を図るための流れが丁寧で、「思考力、判断力、表現力」の能力を育成する上で学びのプロセスを工夫している「教育出版」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、数学科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、数学科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、理科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 理科小委員長の松浦である。理科の調査結果について、報告申し上げる。

● はじめに、「東京書籍」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、

調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「問題発見」や「仮説」など、探究のステップを言語化してアイコンで示すとともに、フローチャートで探究の流れを確認できる。観察実験では、「目的→方法→結果→考察」のステップを紙面の上から下へ縦に並べることで作業の見通しを立てやすくした。第3学年では、「地球と私たちの未来のために」において、課題解決に向けての見通しをもたせ、プラスチックの性質について調べ、生活で削減できるプラスチック製品について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
- 次に、「大日本図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各学年の始めに「理科の学習の進め方」を掲載することと、単元末の「探究活動」や巻末の「自由研究にチャレンジしよう！」の場面で、探究的な活動の例や自由研究のテーマを示し、それぞれの生徒が主体的に見通しをもって探究を進められるようにしている。第3学年においては「運動とエネルギー」において、課題解決に向けて見通しをもたせ、振り子の運動について調べ、位置エネルギーと運動エネルギーの変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
- 次に、「学校図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「探究」では、紙面の左側に「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」などの過程が一連のラインと矢印で示されている。また、手順毎の写真が掲載され、見通しをもった観察・実験が行えるよう工夫されている。第3学年では、「生物どうしのつながり」において、生物の成長・生殖について調べ、生物がどのように殖え、成長するのかについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- その他」については、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、

調査研究報告書に記載のとおりである。

- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各学年の巻頭(折り込み)に「探究の進め方」を配置し、疑問→課題→仮説→計画→観察・実験→考察→結論の順に学習の仕方を常に確認することができ、分からないときはひとつ前に戻り、深める工夫をしている。第3学年においては、「生命の連続性」において、課題を設定し見通しをもたせ、タマネギの根の成長の様子について調べ、根の先端に近い部分の細胞の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
- 次に、「啓林館」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、単元を貫く問い「トライ」を掲載し見通しをもつ工夫がされている。また、探究の過程をガイダンスで紹介し、学習過程を繰り返すことで、資質、能力が育まれるよう工夫してある。また学習の後に「リトライ」において考え方の変化について考えさせている。第3学年では、「化学変化とイオン」において、課題を設定し見通しをもたせ、電池の仕組みについて調べ、ダニエル電池の内部の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。
- 以上で理科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。理科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：科学的な探求を支える知識技能の習得については、どのような取扱いになっているか、説明願う。

A：「東京書籍」では、教科書本文中の例題や章末問題、単元末問題など基本的な問題を中心に学習でき、観察・実験に必要な技能や基本操作などについては動画で確認することができる。「大日本図書」では、単元末のまとめや単元末問題で、学習を振り返り、知識・技能の定着を確認できるだけでなく、例題や章末問題で生徒一人一人の歩幅に合わせた学習を進めることができる。「学校図書」では「Can-Do-List」で、どのような資質・能力が身につけられるか明示している。「ふり返ろう・つなげよう」で、下位学年までの学習を再度確認できる構成になっていて、既習事項を意識した学びができる。「教育出版」では、「要点をチェック」「要点と重要語句」「基本問題」等の5段階のステップで繰り返しの学習と振り返りを通して知識・技能の定着を図っている。「啓林館」では、基礎的・基本的内容が確実に身に付くよう配慮されており、観察、実験では、安全面を最優先に、確実に結果が得られる方法が掲載されている。系統を重視した発展的な学習内容を取り上げている。

Q：北海道や地域に配慮した取扱いについて説明願う。

A：「東京書籍」では北海道について第1学年11箇所、第2学年2箇所、第3学年1箇所、上川について第1学年1箇所、第2学年0箇所、第3学年0箇所の取り扱いがあった。「大日本図書」では北海道について第1学年13、第2学年1カ所、第3学年11箇所、上川について第1学年3箇所、第2学年1箇所、第3学年0箇所の取り扱いがあった。「学校図書」では北海道について第1学年10箇所、第2学年0箇所、第3学年2箇所、上川について第1学年1箇所、第2学年0箇所、第3学年0箇所の取り扱いがあった。「教育出版」においては、北海道について第1学年28箇所、第2学年6箇所、第3学年6箇所、上川について第1学年4箇所、第2学年2箇所、第3学年1箇所の取り扱いがあった。「啓林館」においては、北海道について第1学年17箇所、第2学年8箇所、第3学年10箇所、上川について第1学年1箇所、第2学年2箇所、第3学年1箇所の取り扱いがあった。

Q：各者で事故防止や安全配慮などについてどのような工夫、配慮がされているか、説明願う。

A：「東京書籍」では、安全に対して配慮が必要な場面を「注意マーク」で示している。観察・実験する際の注意事項をチェックすることができる。使用する薬品の注意点を一覧にしている。「大日本図書」では、第1学年は巻頭、第2・3学年は巻末に安全に実験を行う心構えや注意事項をまとめた「理科室のきまり」を掲載している。また、各学年の巻末に「薬品を取り扱うときの注意」を示している。「学校図書」では、危険防止が必要な箇所には、目立つ「注意！！」マークを表示して、生徒に注意が確実に伝わるよう配慮されている。また、巻末の資料で、実験器具の使い方などを取り上げている。「教育出版」では、安全に活動するための指示や禁止事項、特に注意すべきことをマークで表示している。「理科室のきまりと応急処置」を掲載することで、自分の身を守るために大切なことが理解できるようになっている。「啓林館」では、観察・実験の「安全マーク」や「サイエンス資料」を掲載し、安全・衛生、事故の防止に向けて注意すべき内容が確実に伝わるように配慮している。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、理科の採択の審議に入る。

・理科の目標に関わって科学的に探究することが重視されており、各図書においてはその位置付けがなされている。また、生徒が主体的に学ぶための探究の活動の取り扱いや、対話的な学びや深い学びに関わって、各図書で工夫した内容が位置している。その中で「東京書籍」は、個々に対応した部分が丁寧に位置づけられている。「教育出版」については、課題を科学的に解決していく際に、土台となる科学的な知識、技能の取り扱いが5段階ステップで繰り返すなど丁寧に取り扱っている。また、「教育出版」は北海道や上川管内との関わりのある内容の掲載が他者より豊富で、身近な自然や事象を生かして生徒が意欲的に学習に取り組むことにつながる。さらに、これまで学んできた学習との関連が分かりやすく示されているなど、学びの系統性も丁寧に取り扱われている「教育出版」がよいのではないかと。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、理科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、理科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、音楽科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 音楽科小委員長の米津である。音楽科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年P26の「パートの役割を生かして合わせて歌おう。」や第2・3学年下P19の「Active!フレーズと形式」等において、曲の山場の部分を確認し、その部分の特徴をまとめる活動やフレーズや形式を理解して、ブレスの取り方を工夫して歌ったりする活動など、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。また、器楽では、P8からの「リコーダー」で、活動のポイントや運指図を確認できるようにしたり、動画コンテンツで模範演奏を視聴したりして演奏する活動など、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- その他については、北海道地域に係る曲や写真・解説等が、一般・器楽を合わせて、12ページ、21箇所に取り上げられており、特に、歌唱の活動としては、第1学年のP34にソーラン節が取り上げられている。また、鑑賞の活動としては、同じく第1学年のP36、37にソーラン節の他に江差追分やアイヌ民謡の歌声が取り上げられている。さらに、器楽P57の弦楽器の鑑賞の発展において、樺太アイヌの楽器でトンコリが取り上げられている。上川・旭川に係る教材については、第2・3学年上P79に、作詞者が旭川のイメージに合う歌であると推称した「雪の降る街を」が取り上げられており、さらには、旭川市の大雪クリスタルホールにある詩碑の写真が掲載されている。
- 次に、「教育芸術社」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等に係る『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年P45の「学びのコンパス音楽の特徴を捉えよう」や第2・3学年下P48の「声や音楽の特徴を生かして謡を謡おう」等において、演奏を聴いて確認したことをもとに気付いたことや考えたことをまとめる活動や声の音色や速度、リズムの変化を感じ取り、表現を工夫して謡ったりする活動など、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。また、器楽ではP85の「学びのコンパス音の重なり方の特徴を捉えよう」で、学習の手順を確認できるようにしたり、デジタルコンテンツで学習に役立つ資料を視聴したりして演奏する活動など、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。
- 「その他」については、北海道地域に係る曲や写真・解説等が、一般・器楽を合わせて、19ページ、33箇所に取り上げられており、特に、歌唱の活動としては、第1学年のP60・61にソーラン節が取り上げられている。また、鑑賞の活動としては、同じく第1学年のP62にソーラン節の他に江差追分が取り上げられている。さらに、器楽P56には、篠笛を使った各地に伝わる

郷土の祭りや芸能において、五勝手鹿子舞（ごかってししまい）が写真で取り上げられている。
ただし、上川・旭川に係る教材等については、取り上げられていない。

●以上で音楽科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。音楽科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：音楽においてもできる対話的で深く学ぶ工夫がされているか説明願う。

A：「A表現」領域の創作の活動において、「教育出版」の第1学年P40の「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」や第2・3学年下P32の「CMソングをつくろう」等において、言葉の重ね方を工夫して、イメージに合った音楽をつくったり、言葉や音階の特徴を生かして旋律をつくったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。「教育芸術社」では、第1学年P29等にある「MyMelody」や同じくP38等にある「Let'sCreate!」において、音のつながり方を工夫して旋律をつくったり、リズムの重なりや音の出し方を工夫してリズムアンサンブルをつくったりするなど、考えを広げたり、深めたりする活動が取り入れられている。

Q：生徒が主体的に学ぶための各者の工夫について、説明願う。

A：両者とも、教材ごとに学習内容を明確にし、学習の見通しがもてるような、キャラクターの吹き出しによるヒントなどが提示されており、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されております。例えば、「教育出版」であれば、第1学年P16、P63などを参照願う。「教育芸術社」であれば、第1学年P14～21を参照願う。また、「教育出版」の第1学年P8では、「学習マップ」において、題材ごとに学びのねらいや学習する曲や活動、そして、「学習の進め方」において、学びの手掛かりとなる〔共通事項〕を示し、さらには、学びを深めるための関連する曲や活動を示すことにより、学習内容や教材を関連させて見通しをもつことができるようになっている。「教育芸術社」も、第1学年P8の「学習内容」において、学習内容や音楽を形づくっている要素について示すとともに、教材ごとに関連の度合を示し、それぞれの教材で何を学習をするのかについて見通しをもつことができるようになっている。

Q：二次元コード・URL等で提供されるコンテンツについて説明願う。

A：両者とも、二次元コードを掲載し、生徒が1人1台の端末を活用した学習活動ができるよう、使用上の便宜が図られている。「教育出版」は、目次に「まなびリンク」として、二次元コードが示されており、教材の中でも、二次元コードから関連する映像や学習ノートなどを見ることができるようになっている。「教育芸術社」も、目次に二次元コードが示されており、教材の中でも、二次元コードから関連する映像を見たり伴奏を聴いたり、学習ノートなどを見ることができるようになっている。

会長 他に質問等はないか。（なし）

※小委員長退席

引き続き、音楽科の採択の審議に入る。一般と器楽を一括して出版社を決める。

・教材の繋がりを示している「学習マップ」は、学習の進め方が非常に分かりやすく、主体的、協働的な学びの実現に資すると考えると「教育出版」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、音楽科については、「教育出版」がふさわしいと考えるが、

いかがか。(異議なし)

それでは、音楽科については、「教育出版」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、美術について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 美術科小委員長の澤田である。美術科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「開隆堂」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、第1学年の「イメージを伝える形」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、ロゴタイプの形や色彩について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2、3学年で「イメージを形にして」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自分の思いや材料などをもとに表現方法について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道(上川)の地域の状況等に応じた内容として、第1学年で「イメージを伝える形」の題材において、地域を表すマークの表現意図を調べて鑑賞しようという項目で札幌徽章を取り上げられている。第2、第3学年で「持続可能な未来へ」の題材において、ウポポイや国立アイヌ民族博物館を写真で取り上げ、アイヌ民族の文化や世界観について紹介されている。
- 次に、「光村図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については第1学年で「心ひかれるこの風景」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの風景を描いた作者の思いや表現の工夫について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2、第3学年で「あかりがつくる空間」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、様々な光が与える印象や効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道(上川)の地域の状況等に応じた内容として第1学年で「木と親しむ暮らし」の題材において、旭川家具の職人が製作しその年に出生した子どもたちに贈られる「君の椅子」プロジェクトが取り上げられており、地元の工芸に親しむ工夫がなされている。第2・3学年で「北と南の民族衣装」の題材において、アイヌ民族の伝統的な衣装を紹介するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。
- 次に、「日本文教出版」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については第1学年で「材料に命を吹き込む」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身の回りの材料などの形や色彩の特徴について交流するなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が工夫されている。第2、3学年で「魅力を伝えるパッケージ」の題材において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、中身のイメージをもとに美しさや伝達の効果について交流するなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として第1学年で「木と親しむ暮らし」の題材において、旭川家具の職人が製作しその年に出生した子どもたちに贈られる「君の椅子」プロジェクトが取り上げられており、地元の工芸に親しむ工夫がなされている。第2、第3学年で「北と南の民族衣装」の題材において、アイヌ民族の伝統的な衣装を紹介するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。
- 以上で美術科の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。美術科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：学習の振り返りや自己評価は、どのような配慮がされているか、各者の工夫していることについて説明願う。

A：「開隆堂出版」では、巻末に各学年と中学校美術科の学習を振り返り、自らの人間としての成長を確認できるよう構成されている。ワークシートや振り返りシートが全題材で用意されている。「光村図書」では、全ての題材で目標を3観点で示し、わかりやすい簡潔な文言でまとめ、身につける力や学習のねらいが生徒に明確に伝わるように工夫されており、生徒はそれに基づき振り返ることができるような配慮がされている。「日本文教出版」では、全ての題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるような配慮がされている。また「造形的な視点」が示されており、自己評価ができるように配慮されている。

Q：美術で必要な表現技法を身につけさせるための特徴的な工夫について、説明願う。

A：「開隆堂出版」では、巻末で、「学びの資料」（全学年）として、表現活動や制作する中で必要となる意識や技法などを紹介したり、「持続可能な未来へ（第2、3学年）」では、ウポポイを紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。表現の基礎を身に付けさせるような分かりやすい説明を載せている。「光村図書」では、巻末で「学習を支える資料」（全学年）として、美術作品の鑑賞方法などを紹介している。「日本文教出版」では、巻末で、「学習を支える資料」（全学年）として、技能の取得や題材に関連した鑑賞資料などを紹介したり、道内の野外彫刻を紹介したりするなど、学習意欲を高める工夫がなされている。

Q：指導者や生徒にとって、教科書の冊数が2冊、3冊になることによる違いがあるのか説明願う。

A：指導者側としては、教科書が2冊または3冊であっても特に戸惑う部分はない。「日本文教出

版」だけ3冊なのは各学年の発達の特徴に即した題材提供を強く狙っているという話題が調査委員会内で出た。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、美術の採択の審議に入る。

- ・各者ワクワクするような素晴らしい芸術作品がたくさん載っていて、生徒の創作意欲を高められる構成になっている。美術科は週あたり1～1.3時間程の取扱いであり、授業の時間は限られる。その中で2次元コードを活用して創作意欲を膨らましていくための工夫として「光村図書」は、色々なアングルから作品を紹介したり、創作の視点に関わるコンテンツを充実させたりしている点で優れている。
- ・「光村図書」は、苦手な生徒でも「こうやったら描けるかもしれない」とか、他者の工夫を共有することで、作品作りに向き合えるような、そんな配慮がある。また、別冊の資料において、3年間のそれぞれ学ぶ技法を網羅されているため、1年生の時、2年生の時、3年生の時それぞれのタイミングで振り返りながら自分の表現をしていくことができるつくりになっている。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、美術については、「光村図書」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、美術については、「光村図書」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、保健体育について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 保健体育小委員長の及川である。保健体育の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「大日本図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、学習のねらいをつかむ場面で、解決したい学習課題を明確に示している。特徴的な所として、教科書のレイアウトが統一されており、見やすい構成となっている。「つかむ」「話し合う」「ふかめる」という授業の流れがわかりやすい設定となっている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道(上川)の地域の状況等に応じた内容として、札幌オリンピックや胆振東部地震の写真など、6箇所で取り上げられている。
- 次に、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、「課題をみつける」場面で、日常経験から自他の課題発見につながる発問が設定されている。特徴的な所として、巻末資料が充実しており、資料を活用してより具体的に知識を広げる設定となっている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、北海道マラソンにかかる人々の写真や胆振東部地震の写真など6箇所では取り上げられている。
- 次に、「大修館書店」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」について各章ごとに、「つかむ」「身に付ける」「振り返る」という3ステップで構成させている。特徴的な所として、資料以外にコラム欄が豊富に掲載されており、章のまとめで、学びを確認できるように設定されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、日常の学校生活の様子や、胆振東部地震の土砂崩れの様子など、10箇所では取り上げられている。
- 次に、「学研」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、ウォームアップでキーワードを示し、エクササイズから学びを生かす設定となっている。特徴的な所として、課題の発見・確認、その解決に向けたエクササイズが豊富に準備されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、札幌オリンピックミュージアムや知床の写真など、6箇所では取り上げられている。
- 以上で保健の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。保健体育の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：感染症とその予防に各者の特徴的な内容について説明願う。

A：「大日本図書」は、発展的な学習の中で、全ての人々が健康で生活できる社会の在り方ということで、感染症を含めたコロナウィルス感染症の問題ということで4分の1ページ分取り上げられている。「東京書籍」では、保健の「大切な命を守る」という項目で、コロナウィルス感染症を含む感染症の対策というところで、特に時期的には感染症が本格的に流行する、学習で行くと1年間の長期間に学習できるような配列で記載されている。「大修館書店」は、社会の急速な変化、コロナウィルス感染症の変化等に対応したさらに深い学びとなるよう、今日的な課題という項目もとコラムの中でも取り上げられており、中身的には積極的に取り上げられている。感染症、それからその歴史ということで、約10ページにわたって、特にコロナウィルス感染症を含めた感染症で取り上げられている。最後、「学研」では、学感染症の予防という分野で広く取り上げられている。保健医療機関の利用、それから医療、医

薬品の利用の中でも、コロナウィルス感染症というところで発展的に取り上げられている。

Q:インターネットを用いた学びやインターネットの関わり方について、各者の特徴的な内容の説明を願う。

A:「大日本図書」は、インターネットを利用した犯罪と絡めての記述として、学習の中で発展的な学習内容というところに取り上げて記載がある。次に、「東京書籍」は、これも今日的な課題の1つとして、インターネットによるコミュニケーショントラブル、ツールを挟んでいる会話ばかりで本当の会話がなくなることによるトラブルも含めた依存症について、大きく取り上げられている。「大修館書店」は、この社会の急速な変化、今日的な課題の中のネットワークを利用した犯罪、さらに性暴力、そこにも発展して書かれてるところがある。それから、スマホ利用の習慣の見直しという、実際の子供たちの生活にも機械での問題定義という、そういうところも記載されている。「学研」では、インターネットやSNSを通じた犯罪を具体的に記載するなど、注意喚起が多くなっている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、保健体育の採択の審議に入る。

- ・現在使われてる「東京書籍」がよいのではないかと。その上で、「東京書籍」の他者にはない特徴を何点が挙げると、まず各章の最初にどの者でも小学校と高校で学習することが示されていることで、系統性のある指導ができるように配慮されている。「東京書籍」については、さらに道徳科の各内容項目との関連が示されているというのが、他者にはない特徴である。また、二次元コードコンテンツについては、やはり他者と比較しても明らかに充実している、動画コンテンツも多く用意されており、巻末の「スキルブック」に健康、安全に関わる20のスキルが資料として示されていて、二次元コードの動画と一緒にそれを実践できるようになっている。
- ・スマートフォンの取り扱いについて、巻末の資料の中でしっかりと子供たちが学べる内容になっていったことと、今回、薬物、喫煙、飲酒に対し段階的に学べる構成になっているところから、「東京書籍」がよいのではないかと。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、保健体育については、「東京書籍」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、保健については、「東京書籍」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、技術・家庭について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 技術・家庭小委員長の源田である。技術・家庭の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「開隆堂」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」および、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」、「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- その他について、技術分野においては、北海道にかかわりのある内容として、「材料と加工の技術」において、身の回りの材料や加工の技術の説明で、白鳥大橋が扱われるなど、全13箇

所で取り上げられている。家庭分野については、北海道にかかわりのある内容として、「多様な家族関係」において、地域の取組の説明として、札幌市のヤングケアラー交流サロンが扱われるなど、全5箇所で行われている。

● 次に、「東京書籍」についてである。

○ 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』および、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」、「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」について、技術分野においては、北海道にかかわりのある内容として、「動物を育てる技術」において、省力化のための自動化の技術の説明として、八雲町の酪農家が扱われるなど、全7箇所で行われている。家庭分野については、北海道にかかわりのある内容として、「住まいと気候風土の関わり」において、日本の住まいの例の説明として、寒さや雪に対応した住宅が扱われるなど、全7箇所で行われている。

● 次に、「教育図書」についてである。

○ 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』および、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」、「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ 「その他」について、技術分野においては、北海道にかかわりのある内容として、「社会の発展と生物育成の技術」において、寒さに強いイネの説明で、ななつぼしが扱われるなど、全10箇所で行われている。家庭分野については、北海道にかかわりのある内容として、「食事の役割を考えよう」において、こども食堂の説明で、札幌市のこども食堂が扱われるなど、全6箇所で行われている。

●以上で技術・家庭の調査研究報告を終わる。

会 長 これから質疑応答を行う。技術・家庭（技術分野）の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：「知識及び技能」の内容について、目標を達成するために、どのような学習活動が取り扱われているのか、説明願う。

A：「開隆堂」についてである。技術分野では、生物育成の技術による問題解決学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、設定した課題に応じて育成計画を立てたり、問題解決の過程を振り返り、育成した作物の評価をもとに改善策を考えたりするなど、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。家庭分野では、衣食住の生活内容において、生活の中から問題を見いだして課題を設定するために郷土料理や行事食を取り上げ、地域の雑煮を調べて調理するなど、考えを深めたりする学習活動が取り上げられている。「東京書籍」についてである。技術分野では、生物育成の技術による問題解決学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、グループで育成計画を交流し、必要に応じて修正したり、栽培の育成計画や観察記録を振り返り、栽培レポートを作成したりするなど、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。家庭分野では、衣食住の生活内容において、生活の中から問題を見いだして課題を設定するために持続可能な衣生活を取り上げ、衣服をリフォームしたり、リメイクしたりするなど、考えを深めたりする学習活動が取り上げられている。「教育図書」についてである。技術分野

では、生物育成の技術による問題解決学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自分の考えた計画を先輩や友人の計画を比較し見直したり、環境調節の仕方や成長に応じた管理の仕方などの修正案をまとめたりするなど、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。家庭分野では、家族・家庭生活の内容において、生活の中から問題を見いだして課題を設定するために高齢者の一般的な特徴を取り上げ、Googleなどを身に付けた疑似体験をするなど、考えを深めたりする学習活動が取り上げられている。

Q：URLやQRコードの掲載の状況について説明願う。

A：「開隆堂」についてである。技術分野では、1人1台端末を活用した学習活動として二次元コードを掲載している。家庭分野では、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、動画や学習カードを活用できるようにしている。「東京書籍」についてである。技術分野では、1人1台端末を活用した学習活動としてDマーク（二次元コード）を掲載している。家庭分野では、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、動画やシュミレーションを活用できるようにしている。「教育図書」についてである。技術分野では、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載している。家庭分野では、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、動画や計算ソフトを活用できるようにしている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、技術・家庭の採択の審議に入る。

- ・各者工夫されているが、「教育図書」は、その技能の習得のために「スキルアシスト」を別冊にまとめて掲載している。「東京書籍」については、重要語をゴシック体で強調し、なおかつ教科書の下段に「テックラボ」という名称で掲載している。「開隆堂」も、教科書の下に「豆知識」あるいは「チェック欄」があり、確実な定着を目指している。そういう観点からすると、「開隆堂」と「東京書籍」が望ましい。家庭科で調理の基礎の実習例でいうと生姜焼きの例示において「開隆堂」は写真のコマ数が多く調理過程が大変わかりやすい。技術家庭科の教科担任の先生の半分が免外である本道の実態を考えると、指導のしやすい教科書、わかりやすい教科書が望ましい。このように考えていくと、現行使用している「開隆堂」がよいのではないか。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、技術・家庭については、「開隆堂」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、技術家庭科については、「開隆堂」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、外国語について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 外国語小委員長の越野である。外国語の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。
- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のおお

りであるが、特に各学年、各学期の到達目標を「CanDoリスト」に示し、明確な到達点が示され、学びを促進するよう工夫されている。また、単元のゴールあるいは活動が初めに示されているので、生徒は見通しを持って進めることができる。また、目的、場面、状況に応じて英語で意思や情報を伝え合う活動なの対話的な学習が設定されている。また、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深め、それを表現につなげたりするような「readandthink」、あるいは「UnitActivity」など、統合的な活動が設定されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ その他については、北海道に関しては、第2学年で8箇所、第3学年で4箇所記載されている。

● 次に「開隆堂」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。

○ 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のとおりであるが、各学年、各探検目標、活動が示されるとともに、単元内のパートごとに目標が明示され、見通しを持って取り組めるよう工夫されている。各単元の「Tuningin」で、題材についての予備知識を獲得し、本文で取り扱う題材を通してより深い学びにつなげるようになっている。グループワークを行ったり、生徒同士がお互いの健康にアドバイスし合ったり、対話的に学習を進めるよう、「OurProjet」という統合的な活動が設定されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ その他については、北海道に関しては、函館やニセコインタースポーツ、北海道の旅行の思い出が第1学年、Dr. SaitoKeisukeの記事が3年生に掲載されている。

● 次に、「三省堂」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。

○ 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のとおりであるが、各学年の目標が示されるとともに、各レッスンの扉絵に単元のゴールとなる活動が示されている。「GoalActivity」に繋がる内容やアイデアを各パートで学ぶ形になっている。「SmallTalkPlus」では、やり取りを継続するときのコツを学んだり、また、いくつかの単元でまとめとなるプロジェクトがあり、グループでのポスターやプレゼンテーション作成など、統合的な活動が設定されている。

○ 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

○ その他については、北海道に関しては、ロコソレ藤沢さんのカーリングについての資料が第1学年、五稜郭が第2学年に掲載されている。

● 次に、「教育出版」についてである。

○ 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、

報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のとおりであるが、各学年、各学期の到達目標を「Can-Do自己チェックリスト」として示し、自分自身で確認しながら学習を進められるよう工夫されている。また、各単元の初めに考慮や活動も示され、見通しを持って学習を進めるように工夫されている。また「TipsforReading&Writing」、「UsefulExpressions」など、単元の題材を元にして自分が考えや発表したり伝え合ったりする統合的な活動が設定されている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- その他については、北海道に関しては第2学年でアイヌ文化について、あるいは観光地として札幌、旭川、函館、釧路のタンチョウとジュエリーアイスなどが掲載されている。特に上川管内については、高梨沙羅、町田瑠唯、北口榛花が題材に使用されている。

● 次に、「光村図書」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のとおりであるが、各学年目標や各単元の目標、活動が示されて、単元内各パートでの言語項目の練習が単元の終末課題に繋がるような内容となっている。また、単元内の各パートのほとんどにおいて級友とやり取りを行う場面が設定され、そのやり取りを基に自分の考えを表現する統合的な活動が設定されている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- その他については、北海道に関しては、アイヌ文化について2年生、札幌の地下鉄、上川管内に関しては、観光名所として旭山動物園が取り扱われている。

● 次に、「啓林館」についてである。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、報告書に記載のとおりである。

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については報告書に記載のとおりであるが、ユニットの目標や活動、ユニット内の最初にコラムの扉の上部に目標や活動が掲載されている。どの技能を伸ばすかなど、見通しを持って取り組むことができるよう工夫されている。また、各パートの最後に学んだ文法等の目的、場面状況に応じて自己表現する場を見つけるなど、各学期において統合的な活動も設定されている。

- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- その他については、上川管内出身の高梨選手が第1学年で取り上げられている。

●以上で外国語の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。外国語の調査研究報告について質問等はあるか。

Q：小中接続の観点から、各者の特徴について説明願う。

A：各者とも第1学年の前半に小学校の学習内容を振り返る機会を設けている。例えば、音・文字の関係を扱う単元や、小学校で学んだ表現を使ったり、やり取りを入れている。小学校の学習活動をアレンジしたものを設定して、既習単語を別枠で紹介するなどのページを設けたりして、小学校外国語活動の流れをそのまま取り入れて、「CanDoリスト」等で系統性を持って学びにつなぐような配慮がされている。例えば、現在小学校で扱われている「東京書籍」だと、第1学年の前半の単元を小学校の学習内容の接続期間であると明記している。「Sounds&Letters」では、音と文字の関係を扱い、小学校の音を中心にした学びから中学校での読み書きに慣れるよう配慮する取り組みを各者行っている。

Q：二次元コードについて、特に音と言葉とを結びつけるための各者の取扱いや工夫について、説明願う。

A：各者とも二次元コードを十分に使って、個別最適な学びを配慮した自学自習ができるように、音声から、口の使い方から発音の仕方がというようにコンテンツが配備された教科書がたくさんあって、特に音声については全ての教科書で扱っている。どの教科書でも音を中心にしながら自分でしっかりと耳を鍛えられる環境が整っている。

Q：第3学年になると社会的な内容の取扱が増えるため、難しさを感じる生徒に対する各者の取扱の工夫について、説明願う。

A：内容の社会的な広がりについて、各者ともすごく興味深い内容を取り扱っている。英語の目標の中に「見方、考え方」が示されており、自分の考え方を再構築するというのが目的になっている。自分の持っている考え方を、そういった話題や、その話題を仲間とのやり取りを通して、「そういった見方もあるんだ、考え方もあるんだ」ということで広げたり深めたりすることができるつくりになっている。最後にリポートを持ってくるなど各者構成が工夫されているため、そういった意味では難しい内容になるかもしれないが、子供たちの将来にとってはずごく有益な題材を各者とも取り揃えている。

Q：苦手な子どもでも自分事として学びやすくなるような各者の工夫があれば説明願う。

A：各者の工夫としては、二次元コード、URLを教科書にふんだんに取り入れており、自分の興味関心にあったところからそれぞれアクセスをして学び直しもできる環境にあり、先んじて取り組めるような環境を各者とも揃えている。そういった意味では、率直な生徒各自の求めに応じて勉強することが可能になってくる。大切なのは、自ら学びたいという思いになった時に、教科書等を通して、もっと学びたい、もっと知りたい、そういった動機づけをしっかりと教科書等と通じながら、高めながら、英語学習を進めていくということが1番大事になる。コンテンツ的には非常に興味深いものがたくさんあるため、そういった意味で、内容に特化した授業展開が今後求められる。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、外国語の採択の審議に入る。

- ・小学校との接続、連携の観点から、昨年の小学校の外国語の教科書図書の選択の際に、論点として、小学校、中学校の関連付けをを重要視すべきであるということが話題になった。小学校

から中学校第1学年に入る時に同じ教科書で復習を兼ねて入っていける、小学校で習ったことから学びに入るなど、そういったことが重要で、生徒たちがすんなり受け入れられるのではないか。小学校で学んだことから徐々に入っていけることで英語嫌いの抑制が期待できることを考えると「東京書籍」がよいのではないか。

- 本当にどの教科書もそれぞれに良いが、コミュニケーションが図れると英語が使えるということを考えていたときに、英語の相手ではない子でも、話したくなるような工夫とか、わかりやすい仕掛けみたいところに着目すべきではないか。例えば、単語が読めなくて困ることがあるが、例えば二次元コードが進出単語のところにきちんとついていたのは「東京書籍」で、そこをクリックするとすぐにもう単語の発音ができるようになっていることで、生徒が使いやすいのではないか。さらに、日本語もそれなりに使い、ステップを踏みながら、「読む、書く、話す、聞く能力」を高めていくときに、子供が自分でも使いやすいという視点から考えると、「東京書籍」が総合的にはよいのではないか。

会 長 これまでの審議の経過を踏まえ、外国語については、「東京書籍」がふさわしいと考えるが、いかがか。（異議なし）

それでは、外国語については、「東京書籍」の教科用図書を採択することと決定する。

会 長 続いて、道徳科について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 道徳科小委員長の中川である。道徳科の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、「東京書籍」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」について、写真やイラストを見て自ら問題を見出し、その問題についてグループや学級で話し合う活動が全学年に設定されている。また、各教材末の発問に「ぐっと深める」を設け、深い学びへ誘うよう配慮されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容は、第1学年の「『どうせ無理』という言葉に負けない」において、北海道芦別市の植松努氏が扱われる等全6教材で取り上げられている。
- 次に、「教育出版」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各学年に「やってみよう」というコーナーを設けて、役割演技やエンカウンターの手法を取り入れることにより、話し合いの場において考えを広げたり、深めたりする活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

- 「その他」については、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第3学年の「カムイモシリとアイヌモシリ」において、アイヌ民族やアイヌの世界観が扱われる等、全6教材で取り上げられている。
- 次に、「光村図書」についてである。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については各学年に、実感を伴った学びを高める「まなびをプラス」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように、また、体験的な学習については、各学年に役割演技で実感を伴う議論ができる「チャレンジ」を配置している。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容としては、北海道に関する内容が8点掲載されている。
- 次に、「日本文教出版」である。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については問題解決的な学習や体験的な学習の手法に適した教材には、学びの参考となる「学習の進め方」が設けられている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載の通りである。
- 「その他」について、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容としては、上川に関わる内容はないものの、北海道に関連する内容が5点掲載されている。
- 次に、「学研みらい（学研）」である。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、言語活動や問題解決的な学習欄等に記載している考えを深める4つのステップを『深めよう』のページで実際に取り組んだり、特設ページ『クローズアップ』や『クローズアッププラス』で、教材の関連情報や教材と異なる視点の情報を提供することで、生徒が課題に主体的に向き合い、多面的・多角的に考えるための工夫がされている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第2学年の「鳥のように空を飛びたい」において、上川町出身のスキージャンプ選手高梨沙羅選手の競技に取り組む姿勢やたゆまぬ努力等全8教材で取り上げられている。
- 次に、「廣済堂あかつき」である。

- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各学年に、教材を読んで考えるための視点を提示した吹き出しの「発問」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができる工夫がなされています。また、各学年に3本ずつ、「マイ・プラス」を配置し、いろいろな視点から考えを深めるページが用意されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第2学年の「鳥のように空を飛びたい」において、上川町出身のスキージャンプ選手高梨沙羅選手の競技に取り組む姿勢やたゆまぬ努力等全8教材で取り上げられている。
- 次に、「日本教科書」である。
- 「学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標及び内容等の『取扱内容』」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 特に、「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」については、各学年に「古今東西〇〇放談」というページを設けて、世界の偉人の言葉を参考にしながら、哲学的な問いに対して話し合うなど、考えを広げたり、深めたりする活動が工夫されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 「その他」について、北海道（上川）の地域の状況等に応じた内容として、第2学年の「こころを育んだ遠友夜学校」において、新渡戸稲造や北海道大学が扱われる等、全8教材で取り上げられている。
- 以上で道徳科の調査研究報告を終わる。

会長 これから質疑応答を行う。道徳科の調査研究報告について質問等はあるか。

Q: いじめ問題について生徒が自分事として考えられるようにするために、各者どのように工夫されているか、説明願う。

A: 「東京書籍」では、「いじめ防止への対応について」は、各学年にユニット「いじめのない世界へ」が配置され、複数教材を通して、多面的・多角的にいじめ問題に向き合うことができるよう配慮されている。「教育出版」では、第1学年と第2学年で12ずつ、第3学年で5つの合計29の教材で取り扱われている。「光村図書」では、各学年に対応する3つの教材が配置されており、1回で終わらず、複数回でいじめ問題、人権問題に考えさせる取り組みがなされている。「日本文教出版」では、各学年の中に事例を「直接扱った教材」と「間接的に考える教材」、「知識を深めるもの」と「スキルを身につける」コラムの二段構えの構成で、生徒が多面的・多角的にいじめ問題と向き合えるように、工夫がされている。「学研」では、各学年でいじめ防止のために直接的、間接的に考えられる教材を年間を通して配置している。生徒に人気のコミックを教材化するなど、生徒の興味関心を高める工夫がなされている。「廣済堂あかつき」では、第1学年は4教材、第2・3学年は2教材が取り扱われてい

る。「日本教科書」では、第1学年で2つ、第2学年と第3学年で3つずつの合計8つの教材で取り扱われている。

Q：情報モラルの指導について、各者どのように工夫されているか、説明願う。

A：「東京書籍」では、第1学年の中でSNSや情報機器の使い方について、第2学年ではいいねや見方や思い込みについて、第3学年ではSNSの書き込みやインターネットあるいはスマホの依存症に関わる内容について教材を取り上げて考えさせている。「教育出版」では、第1学年ではルールとマナーの1つとしてインターネットの使い方やSNSのマナーを、第2学年ではSNSとの付き合い方や人との約束ごとについて考えさせる内容を定義している。第3学年では、歩きスマホの有無について、それぞれどうあるべきかということを考えさせている。

「光村図書」では、第1学年で節度ある端末の使い方、使いすぎないようにという考え方の話し合いを行わせている。第2学年では、インターネットの利用を振り返ろうということで、節度や摂生に関わる内容やインターネットにおけるコミュニケーションについて話題にしている。第3学年では、「漫画泥棒」という教材で、インターネットの中の社会ではどうあるべきかということを解いている。「日本文教出版」では、全てが特活的な資料ですけれども、第1学年で情報社会のあり方、第2学年で情報の受信と発信のあり方、第3学年ではAIと情報社会について記事が掲載されている。「学研」では、1年生で「ネット将棋」や「日曜日の朝に」という読み込み教材の中から、情報について、ネット依存について考えさせている。第2学年では、SNSの良いところについて震災を教訓に考えさせる教材を掲載している。第3学年では、SNSの付き合い方やアップロード、ダウンロードのあり方について触れていた。「日本教科書」では、第1学年では情報の光と闇を漫画などで分かりやすく掲載している。第2学年では、AIやSNSのコミュニケーションについて話し合う場面を設けている。第3学年では、SNSの誹謗中傷について取り上げている。「廣済堂あかつき」では、第1学年では、「ネット将棋」という読み取り教材の中でモラルについて説いている。第2学年では、SNSをほどほどのラインではどうなのだろうということで、依存度に関わる内容について考えさせる教材がある。第3学年では、リアルとネット、Lineの写真の扱い方等を教材として扱っている。各者とも、今中学生にとって各学年で必要と思われる教材を工夫して掲載している。

Q：生徒が主体的に学ぶために、自分事として捉えたり、あるいは実感を伴いながら学んだりしていく手立てについて、各者どのように取り扱っているか説明願う。

A：主体的、対話的な心情をめぐる部分で深めるために必要な話題については、いくつかあるかとは思いますが、言語活動について説明する。子供たちが協働的に学ぶこともまたこの道徳の学びを深めるために必要だが、各者の工夫について述べる。「東京書籍」では、各学年に考えたことをメモし、話し合いに活用できる「つぶやき」が配置されている。生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう工夫がなされている。「教育出版」では、各学年に道徳的価値について考えを深めることのできる「学びの道しるべ」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。「光村図書」では、各学年に実感を伴った学びを高める「学びをプラス」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え

方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。「日本文教出版」では、各学年に協働的な学びの積み重ねをまとめられる「道徳ノート」を別冊で配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。「学研」では、各学年の各教材に対する問いかけや気づきを喚起するボックス欄、メモ欄を配置するなど、生徒の考えを深める工夫をしている。「廣済堂あかつき」では、各学年に教材を読んで考えるための視点を提示した吹き出しの発問を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。「日本教科書」では、対話しやすい環境を作る「ウェルビーイングカード」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるような工夫がなされている。各者とも、生徒が1つの考え方に偏らず、なおかつ他者の考え方も尊重できるような発問や配置、教材などを選定している。ユニットに対する考え方については、各者工夫をしているが、このユニットで道徳はこうやって学ぶということを生徒に分かりやすく段階的に学べるような形、あるいは教師がこの通りに組んでいけばある程度の道徳の授業ができるような、そういった工夫がなされている。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、道徳科の採択の審議に入る。

- ・特別の教科道徳の目標に関わって、道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習が求められており、各図書においてそのための工夫等が位置づいている。また、各者とも多様な教材の配置、例えば漫画だとかグラフ、動画、写真、読み物等々の配置、内容の構成、配列の工夫等により、生徒の学習意欲の高まりや主体的な学びにつながることを期待できる。その中において、「光村図書」は教材の配列ユニットが活かされ、自己の成長や社会生活に配慮した流れになっているほか、発問例を含めた教材の基本構成が生徒の多様な視点を生かしやすいうになっている。また、実感を伴った学びを高める教材を発展的に配置しており、より自分事としての主体性を持った学びになる工夫が優れている「光村図書」がよいのではないかと。

会長 これまでの審議の経過を踏まえ、道徳科については、「光村図書」がふさわしいと考えるが、いかがか。(異議なし)

それでは、道徳科については、「光村図書」の教科用図書を採択することと決定する。

会長 続いて、特別支援教育で使用する図書について、報告の後、審議、採択を行うが、特別支援教育については、道で採択された新規図書8冊についての研究調査結果の報告を受け、一括して採択とするがよいか。(意義なし)

それでは、特別支援教育で使用する図書について、調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告願う。

小委員長 特別支援教育小委員長の加藤である。特別支援教育で使用する外国語の調査結果について、報告申し上げる。

- はじめに、東洋館社会「くらしに役立つソーシャルスキルーよりよく暮らす・働く・楽しむー」についてである。
- 「自分のこと」「相手とのこと」「将来のこと」をテーマに、自分と社会との関連を考えながら知識及び技能の習得が図られるよう構成されている。
- 「内容の構成・排列、分量等」「使用上の配慮事項」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、成美堂出版社会「いちばんわかりやすい小学生のための学習日本地図帳」についてである。
- 各地方の地形や自然、観光や産業、代表的な文化等について、調べたり、まとめたりして活用できるよう構成されている。
- 「内容の程度・排列、分量等使用上の配慮事項」「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、成美堂出版社会「いちばんわかりやすい小学生のための学習世界地図帳」についてである。
- 特に、各地域の地形や自然、人々や文化、産業の特徴等について、調べたり、まとめたりして活用できるよう構成されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、東洋館社会「改訂新版くらしに役立つ社会」についてである。
- 「調べよう」、「深めよう」のように学習過程を明確に示すことで、生徒が主体的に学習に取り組めるよう構成されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、偕成社算数・数学「さわる絵本ちびまるのぼうけん」についてである。
- 特に、数や形に着目し、触覚を活用しながらしっかり観察する力を養うことができるよう構成されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、こばと教材出版社算数・数学「初級編ステップアップマッチングⅠ」についてである。
- 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質に気付き理解できるよう構成されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、学研出版社理科「どんどんめくってはっけん！からだのふしぎ」についてである。
- 食べ物の消化から骨や筋肉、成長の仕組みまでを学ぶことができるしかけ絵本となっている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。
- 次に、主婦と生活社理科「でんじろう先生の学校の理科がぐんぐんわかるおもしろ実験」についてである。
- 小学校で学習する理科実験の原理を使ったおもしろ実験が紹介されている。
- 「その他」については、調査研究報告書に記載のとおりである。

会長 これから質疑応答を行う。特別支援教育で使用する図書の調査研究報告について質問等はあ

るか。

Q：情緒的な困り感を持っている子でもこの本をこのように使えば学習意欲が高まるというような具体的な例について説明願う。

A：情緒的な困り感については、その原因や特性、特別な教育的な配慮や指導の内容の違いから、大きく2つタイプがあるとされている。1つ目は、発達の障害である自閉症及びそれに類するものにより、言語発達の遅れや対人関係の形成が困難であるため社会的適応が困難な状態にある子供。2つ目は、主として心理的な要因の関与による社会的適応が困難な状態、心理的、情緒的理由により登校できない状態、登校しぶりや不登校そういった状態にある子供である。これら言語発達の遅れや対人関係の形成に絞って言うならば、ソーシャルスキルトレーニング的な本や、絵やイラスト、図や写真が多く取り入れられた本が有効である。そのような意味では、今回調査した図書全てに共通しているものは、ものがユニバーサルデザインによる紙面作り、ユニバーサルデザインフォントである。また、漢字に振り仮名が振ってあるとか、イラストが見やすいですとか、図やイラストが多いなど、特徴がどの図書にもある。また、かるたや絵本のような仕掛けがあるなど、楽しく遊びながら学べる本もこの中にはあるので、そういった本が視覚優位の子供が増加傾向にあることから、そういった本が有効である。

会長 他に質問等はないか。(なし)

※小委員長退席

引き続き、特別支援教育で使用する図書の採択の審議に入る。

報告のあった特別支援の新規図書8冊については、一括採択してよろしいか。(異議なし)

それでは、特別支援教育で使用する新規図書については、8冊の全てを採択することと決定する。

会長 以上で、令和7年度から使用する第6採択地区教科用図書の採択を終了する。